

## ミール君 近況

ロシアのプーチン大統領から贈られたシベリア猫のミール君が我が家の家族になってから、間もなく3年になろうとしています。

最初の頃の幼さも消えて、今ではまさに青年猫の風格を醸し出すようになりましたが、前にお話ししたように、なんとなく外人風の猫相から秋田県人風の猫相になってきたように感じられます。

今では、他の猫達ともすっかり仲良くなり

ましたが、常にミール君中心なので、時々自分は特別扱いされているかな、とも思われるしぐさを見せることがあります。

食べ物も長毛種の特別な餌だけでは飽きるようで、他の猫どもの目を盗みながら、普通の庶民猫用の餌を満足そうにつまみ食いしています。

また、ミール君用の大型のデラックストイレを用意しているものの、どうしたことか、時々他の猫用のトイレに用を足します。



なにせ一般の猫の倍近い体重故に飲食の量も多くなり、そのウンチとオシッコの量は大変なものになります。

もしかして、「僕を特別扱いしないで、いつも他の猫達と一緒に遊ばせてよ」と言ってるのかもしれない。